

健康診査システム別精密健診頻度の検討

南部 春生¹⁾，千葉 良²⁾，松本 寿通³⁾
池田 宏⁴⁾，加藤 充子⁵⁾，平山 宗宏⁶⁾

研究目的及び方法

行政、保健所における健診は、生後3か月、1歳6か月、3歳児で実施され、ここで発見され、異常を疑われた乳幼児には精密健診票が交付され、専門医療機関を受診し、検査・診療が行なわれてきた。

最近はきめ細かな継続健診が保健所においても実施され、病院においても治療のみならず健診・保健指導に力を入れる施設があり、さらに地域医師会による健診システムも行なわれ、乳幼児の健康維持増進に新たな時代を迎えている。

このような時代に、それぞれのシステムにおいて要精密健診とされる頻度を検討し、診断基準の統一と、地域事情に応じた健診体制を考えることが必要であるので本調査を実施した。

行政直営の健診としては北海道および札幌市、病院としては札幌天使病院と仙台赤十字病院、医師会の健診システムとしては福岡市（7月と12月）、三重県津市（大学、医師会、保健所で共通の健診カード使用、4、10月）および川崎市（10月）の健診成績を検討した。

研究成績

研究成績は表1に示した。

1) 札幌市を除いた北海道の年間精密健診票交付は、平成元年と2年がそれぞれ1.3%、1.4%であった。

2) 札幌市平成2年度の4か月児は1.2%、10か月児は1.6%であったが、9区間の差はそれぞれ0.2~1.9%、0.8~2.8%で大きな開きが認められた。

3) 天使病院で平成元年度に出生し、継続的に健診を受けた602例中、なんらかの指導を受けた数は1~3月児で161.1%、4~6月児で61.3%、7~9月児で28.1%、10~12月児で32.8%と、相談・指導数は多く、専門医の精密健診、治療を必要とした児はそれぞれ、18.3%、4.8、2.5、2.5%であった。

¹⁾ 札幌天使病院、²⁾ 仙台赤十字病院、³⁾ 福岡市医師会乳幼児健診委員会・松本小児科医院
⁴⁾ 川崎市小児科医会 ⁵⁾ 三重大学小児科 ⁶⁾ 日本総合愛育研究所

4) 仙台赤十字病院もほぼ同様の傾向が伺われ、延べ329例中精密健診を必要とした児は14例(3.9%)であった。

5) 福岡市での要指導数は、7月児で25.9%、12月児で18.7%、要精健・要治療は2.0%、1.5%であった。

6) 津市の要指導数は4月児で12.2%、10月児で13.2%、要治療を含めた精健頻度はそれぞれ3.1%、2.6%であった。

7) 川崎市における10月児健診で指導を必要とした児は、平成元年、2年ともに9.3%で、このうち精健を必要とした児は共に1.4%であった。

考察とまとめ

病院における乳児健診、医師会方式の健診で分かるように、親から訴えられる不安や発見される疾病、症状は多く、とりわけ1～3か月健診に際してはたとえその訴えが軽いと思われても、十分な説明、指導、方向付けが大切である。6か月を過ぎるとその頻度は減少していくが、これは指導、観察、治療などによって解決されたり、他の医療機関での対応によるものであり、親の不安もまた軽減されていくことによる。

この研究の課題である精密健診数については、疾患のとらえ方、健診する医師の経験や考え方などを考慮して、上限で5%、平均的には2%程度であると、保健所の成績、医師会の健診システムの結果から理解できる。また病院での結果はやや趣を異にしており、一次、二次健診機能を持ち、さらに高度の診断と治療が可能であればこの数字は自ずから変動することは当然で

ある。

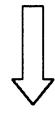
いずれにしても、今後に求められる乳幼児健診システムは、個々の親子の生活をよく理解し、その上で子どもの保健・医療の知識を十分に駆使した健診を展開することが望まれる。

改訂した母子健康手帳の発行の機会に、改めて子どもの心身の健康の維持増進のための研修、親の支援を念頭においた対応が必要である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的及び方法

行政、保健所における健診は、生後3か月、1歳6か月、3歳児で実施され、ここで発見され、異常を疑われた乳幼児には精密健診票が交付され、専門医療機関を受診し、検査・診療が行なわれてきた。

最近はきめ細かな継続健診が保健所においても実施され、病院においても治療のみならず健診・保健指導に力を入れる施設があり、さらに地域医師会による健診システムも行なわれ、乳幼児の健康維持増進に新たな時代を迎えている。

このような時代に、それぞれのシステムにおいて要精密健診とされる頻度を検討し、診断基準の統一と、地域事情に応じた健診体制を考えることが必要であるので本調査を実施した。

行政直営の健診としては北海道および札幌市、病院としては札幌天使病院と仙台赤十字病院、医師会の健診システムとしては福岡市(7月と12月)、三重県津市(大学、医師会、保健所で共通の健診カード使用、4、10月)および川崎市(10月)の健診成績を検討した。